

## 北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会（第5回）

令和2年5月28日（木曜日）午前9時58分開会

---

### ○案件

1. 現地調査を踏まえた今後の検討事項等について
  2. その他
- 

### ○出席委員（8名）

委員長	田村敏郎	副委員長	川村主税
委員	神崎和枝	委員	平松俊一
委員	坂本繁	委員	中川友規
委員	若山雅行	委員	青山金助

---

### ○欠席委員（1名）

委員	上野武彦
----	------

---

### ○委員外議員（0名）

---

### ○出席説明員（0名）

午前9時59分 開会

○田村委員長 それでは、おはようございます。

会議の前に、まず事務局のほうからパソコンの持ち込みの申し出ありましたので、これを許可してまいりたいというふうに思います。

それでは、ただいまから北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会第5回目の会議を開催したいと思います。

上野委員より、本日の会議を遅参する旨の届け出がありました。

それでは、御案内しておりました前回2月10日、約3カ月後になりましたけれども、大変遅れて申し訳なかったのですけれども、2月10日に現地を調査いたしました。4カ所を見まして、これについて検討をそれぞれしてまいりたいと思いますが、まず現地を見て課題というか、そういうものをお感じになったことが多々あると思いますけれども、まず現地を見て、これからそれらの4カ所あるいは5カ所、城岱のほうはちょっと見なかったのですけれども、5カ所候補上がっておりますけれども、それらの地域、これをどうあるべきかといいますか、そういうどうあったほうが特別委員会の目的であります観光資源、こういうものに利活用できていくのかという、これに向けてそれぞれ検討をして協議をしてまいりたいというふうに思います。

本日は、きょうそれぞれの皆様方の感じたものを率直に出していただいて、今後どうあるべきなのかという議論に向けてまいりたいなというふうに考えておりますけれども、その方向でよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○田村委員長 それから、その方向で進みたいと思います。

それから、お手元にお配りした参考資料といますか、これは前、山田学芸員より説明ありました大沼に関する本多静六博士という方が大沼公園改良案、一番最初が大沼公園創設案というものがあつたのですけれども、その後、改良案ということで、それぞれ記載したものをお手

元にお配りさせていただきました。

なかなか興味深い内容といたしますか、こういうものが記載されておりますので、ぜひごらんいただきながら、またどうあるべきなのかの方向づけの、一つの参考にしていただければというふうに思っておりますので、ひとつよろしく願いいたします。

それでは、まず早速。

若山委員。

○若山委員 この本多博士のこの文書というのは、いつ発行されたものかというの、どこかでわかるのでしょうか。

○田村委員長 これについては、ここにも書いていますけれども、本多博士の公園設計というように大正3年に出されて、その前に横山さんという者が設計しているということで、相当古い書物でございます。

前ちょっと話、山田先生のほうからしていただいたときには、こういうものがあるというのは、なかなかわからなかったのですけれども、探していただいて、こういうものが出てきたということで。

若山委員が言うように、いつ出てきたかという、あるいはいつつくったかという、それは大正3年ころというようなことで押さえていただいて、あくまでもこれはこれに基づいて議論するというのではなくて、あくまでも参考程度にとどめていただいて議論をしていただきたいということで、よろしいでしょうか。

若山委員。

○若山委員 済みません。

このちょっと古い計画だというのはわかるのですけれども、この第9号というのはこれ何年に出されたものなのかなという。古い内容のものを昭和に出されたのか、平成に入って出されたのか。その年号というか、発行年みたいなものが、むしろわかれば記録しておきたいなど。

本多静六通信第9号というのが。(発言する者あり)

もしあれだったら、後でも構わないです。わかれば。メモしたいので。

○田村委員長 後で、お知らせしたいと思います

す。ほかに、何かこの参考資料について。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**○田村委員長** もし、なければ早速どうあるべきかに向けた現地調査を踏まえた中での課題等について感じたものを。

総論的なものもあるでしょうし、それから各論的なものも、それぞれあると思いますので、そこら辺はもうざっくりばらんに出し合いながら、議論を深めていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

坂本委員。

**○坂本委員** 4カ所、実質見たのを順番にみんな協賛していったほうがいいのではないの、順番に。どうだろうな。

**○田村委員長** どうでしょうか、皆さん。

前回の2月10日の現地調査に回った順番に題目を挙げて、いろいろぱっと出すよりも順を追ってやったほうがいいのではないかということですけども。

ほかに、何かありますか。(発言する者あり)

それでは、順を追ってということで1番目は大沼、それから道の駅、そして車両基地、赤松街道というようなことの順で議論を深めてまいりたいと思いますので、ひとつよろしくお願ひします。

まず、大沼について、回ったときにはちょっと冬場ということで、なかなかちょっと物足りなさもあったかもわからないですけども、新しい取り組みとしてアイスカルーセルという、氷に乗ってぐるっと回るといような、そういう試みのところにもちょっと参加させていただいたというようなことで、民間は民間なりにそれぞれ努力をしているという、そういう部分もちょっと見させていただけましたけれども。

大沼について、何か。話によると、公衆便所というか、そこら辺が非常にちょっともう少し改良の余地ないかという話と、それから先般、経済産業常任委員会、これの報告書を見ますと、やはり駐車場の問題なのかも報告に出ていますね。値下げだとか、あるいは無料化に向けた考え方、そういう関連ある団体の人いろいろ

ろより多くの利用者が利用しやすいような取り組みを求めたいというような、そういう話もありますし。

平松委員。

**○平松委員** 今回のコロナ騒ぎが収束するまでって、恐らく年単位でかかると思っていますので、まず今回のこの特別委員会でまとめ方としては、二通りのまとめ方が必要なと思います。

それは、近々の大沼の観光客が元に戻るまでの対策を含めたことを、やはり討議すべき。

それと、見に行ったときにはコロナはなかったわけですから、その先といいますか、普段どおりで例えば観光客が来ている状態に戻ったときのことという二つの視点でまとめるのが、まずいいのかなと思うのですけれども。

先ほど経済産業常任委員会の話がちょっと出ましたけれども、やはり30年、40年前と現在の大沼とでは、地元の人たちの訪れ方が全く違うというのが、大きな問題になっています。

このコロナ騒ぎの収束過程で、地元の人たちに少しずつ来てもらうという、昔のよにという表現が当たるかどうかわかりませんが、ちょっと時間あったら大沼へ行ってみよかという、そういうところを目指すことが、まず今まではちょっと欠けていましたよね。

どっちかという観光客観光客、観光バスをどうするのだとか、そういう話を中心でしたけれども、やはりお年寄りの方とお孫さんと一緒に家族で来て半日過ごしたり、食事食べてから帰るだとか、そういうことに必要なものが施設のりだとか、サービスの面でどうなのかとか、こういうことを話していく必要が、まずあるのかなと思うのですよ。

今回、この学芸員さんがいろいろ資料を出してくれましたけれども、私含めて、ほかの方どうかわかりませんが、結構うちの周りの年寄りと話しても、大沼の歴史なのということを知っている人、ほぼいないのですね。極端に言うと大沼に行ったことないという年寄りも、つい最近までいたのですよ。もう80幾つの人ですよ。大沼へ行ったことないという人がね。

だから、この辺の洗い出しというのをやはり地元の人間として、いろんな方の、いろんな方というのは例えばNPOだとか、自然保護活動をやっている方とか、こういう人たちと少し協議する場を設けてもらって、何か楽しそうなテーマみたいなものを提供できるような、何でも役場がどうだ、国だ、補助金出せだとか、そういう話ではなくて、本当に手弁当で何かみんな楽しんでるところを目指すというところがあってもいいのかなというのが、一つ思いました。

あと、観光バスだとか観光客が戻ってきた場合に、鹿部から駒ヶ岳が噴火した場合に赤井川のインターに向けて避難路の、今、整備をしているのですけれども、あそこの見直しを、見直しというか、今回、全然訪ねなかったのですけれども、あれが何年かしたらつながるのですけれども、結構観光バスの流れが変わると思うのですよね。

これを、もう1回追加で現地を見たり、完成時どういうふうになるのかという話を、この場のテーマにしたらどうかというのが私の思ったところですね、大沼に関して。

ちょっと長くなりましたけれども、以上です。

**○田村委員長** 今の赤井川の観光バスルート、もうちょっと話、もうちょっとしてもらえますか、わかりやすく。

**○平松委員** 駒ヶ岳が噴火した場合に、留の湯だとかあの辺の人たち、どっちに逃げるかというのが噴火の状況で変わるのですけれども、国道5号線に逃げるといったときに、軍川を通過して普通に5号線に向かうルートと、湖畔を通過してセミナーハウスだとか、あれの少し鹿部寄りになるのですけれども、森に抜けていく道路があるのですよ、ちゃっぷ林館に行く道路が。この道路の整備が、今、進んでいるのですよ。

これは、何の整備かという避難路なのです。駒ヶ岳が噴火したときに、素早く国道に出られるようにということで。要するに、大沼の両側からどっと5号線に抜けられるようにという道路が、結構進んでいて、もうちょっとなの

です、残っているのは。

そうすると、例えば高速道路を赤井川のインターで下りてきますと、そのまま5号線を横断する形で大沼に向かってこられるのです、この道路は。

そうすると、そのセミナーハウスの近所のところで湖畔道路に合流しますので。多分大沼プリンスの前を通らずに、この新しくできた道路で大沼のほうに入ってくると。

そうすると、湖畔路を走る観光バスの量というのは、相当増えることになると思うのですね。プリンスの前を通らずに、こっち通ると。

だから、その辺もそれに合わせた、ちょっと見直しなのが必要になってくるかなという気がするのですよね。

わかります。

**○田村委員長** わかります。（発言する者あり）

青山委員。

**○青山委員** 今、平松委員から話いろいろ出たのですけれども、基本的にこの特別委員会ですとまとめという、さっき話ちらっと出たのですけれども、その方向性に関して委員長のほうから、まだ今、調査の段階でもっと深く調査していきたいという、その辺の方向性も出していただければ、話の内容も少しはまた変わるのかなと思うのです。

その辺、済みません、お願いします。

**○田村委員長** 今、青山委員のほうから調査の部分もひっくるめて方向性という話だと思うのですけれども、この部分につきましては、私はざっくばらんに4カ所を見たから、それでもっととにかく議論を深めようということではなくて、やはり新しい考え方というか発想に基づいた、必要である、そういう現地調査ということであれば調整していくらでも、やはり見ていけない限りには、なかなか見えてこない部分があるので、そういうものがあればこの次、無理であればその次というようなことで、確認をしながら議論を深めていきたいなと思っておりますので、それでよろしいでしょうか。

**○青山委員** わかりました。

○田村委員長 神崎委員。

○神崎委員 私も今、平松委員の御意見、いい御意見を出してくれたなと思うのですけれども、やはり新しい観光様式というか、今、生活ががらっとやはりコロナの影響で様式が変わってきているということを見ると、やはりまだまだインバウンドの、そういう海外からのお客さんというのは、まず本当に難しい段階かなと思うのですけれども、今後はやはりそういった様式というか、そういうような観光様式というか、地元の本場にさっき言っていたように七飯町の人が大沼に行ったことがないということもありますけれども、新たな目先というか、まだまだ今言ったように、いろんな古墳だとか七飯町にはたくさん、やはりまだ観光の資源があるということで、人のニーズも変わってきていますので、五稜郭戦争のそういう絡みだとか、いろんなやはり興味を持って回って歩く方もいらっしゃるのでは、やはり今みたい新しい先というか、あるのですけれども、なかなか皆さんがわからないようなところもクローズアップ、わっとしてあげると、またそういう興味のある人が地元であっても何回も大沼に来てくれるという、やはり交流人口というか、やはり近辺の方々が大沼に行ってみたい、また七飯町に行ってみいたいというような魅力ある、そういうものを発掘することも、やはり今後、私たちせっかくの特別委員会なので、最後あたりにそういうものをぱっと地図上でもよろしいですし、何かしら残していくような、そういうような特別委員会にしていったらどうかという、改めて今回いろいろ勉強させてもらうといえれば失礼な話、学芸員さんにもいろいろ資料を出してきていただいて、またさらに七飯町の観光というものを、また改めて見直させていただいたところも今回ありましたしね。

そういう意味で、今後、いろんなそういう何年間はその海外の方も見込めないような状態もあるので、そういうことにも力を入れていくことも大事なかなというふうに感じました。

○田村委員長 青山委員。

○青山委員 今、先ほど委員長のほうから方向

性もお話しされたので、平松委員から出た新しい道路、ルート、高速から確かに下りて真っすぐ来られるような状態。あと、数百メートルで完成するような、年度でいつ完成するのかというは確認取れていないですけれども、いずれにしてもそんな中で、大沼の観光というのは、今キャンプ場、大沼の。何か話によると相当人気も出てきて、場所も増やしてほしいというような要望もありながら、神崎委員のほうからも新しい生活様式と今コロナの影響で。

そういった中で聞いているとキャンプ場というのは、それなりに。もともと人気のある大沼のキャンプ場あります。よく話を最近聞くのですけれども、今の敷地内でいえば人数的に足りない、場所を増やしてほしい、当然、道に要望という格好になっていくのですけれども、その辺も含めた、当然人の誘致ということにつながるので、観光、その辺の資源も拡大していくような格好。

要するに、平松委員からも出た地元の人、いつでも遊びに行きやすい環境、キャンプというのは、何だかんだ泊まるということではなくて、ぽっとその日空いて、日中だけでもタープをかけてコーヒー飲んで帰ってくる。そんな生活スタイルも、どんどんはやってきているような状況もあるので、その辺も含めた調査をしていければなと思っています。

以上です。

○田村委員長 ほかに。

今まで出たので、私の主観になるのですけれども、平松委員が言われた身近な散策の場としての、やはり大沼。観光客を主体というのも十分これは大切なことなのだけれども、特にクルーズから来るお客さんを誘致するというのも大切なだけれども、我々が身近に散策できる場としての大沼というのも、これまた捨てがたいというか、さっき青山委員が言ったようにキャンプ、泊まるだけではなくてアウトドアのちょっとした家族で過ごすという、これがまた非常に、今、浸透してきているという中で、やはり東大沼も大事なだけれども、もっとふやしてもらいたいということであれば、やはりそ

れなりの場所、こういうものをきちんと議会としても示せるのであれば示したほうがいい、あるいは町が何か案を持って出していだくというようなことで、やはり大沼を私が言うように観光客も大事だけれども、私たちの身近な散策の場としての大沼をきちんとつくり上げていくような、そういうものにしていければいいのかなという、そういう思いがあるのだけれども。

ほかに皆さん、どうなのでしょう。

青山委員。

○青山委員 済みません、追加で。

伝えたかったことの一つに、やはりインバウンド重視できていたその反動が、今現状でありますので、やはり地元の人で日本人、国内の人が数多く訪れるような、そこをやはり基本考えていったほうが、何かあったときにこういうずっこけるということが少なくなると思っています。

以上です。

○田村委員長 ありがとうございます。

ほかに、何か。

中川委員。

○中川委員 皆さんの言われたような新しい道路だとか、そういう今の状況のお話は良いのかなと、そういう方向で何かかんかできていけば良いのかなと思うのですけれども、その中で、これからのことになるのかもしれないですけれども、新しいルートだとか、例えば今回、城岱は冬だったので行けなかったのですけれども、もし可能であれば、逆にまた今度は夏の観光という意味でもう1回現地、ルートを含めて、シミュレーションではないけれども、ちょっと委員会で行ったほうが良いのかなというのと、あとこの本多さんの古い計画は、この計画は本当にいいなと思うのですけれども、この計画が何で反映されなくなってしまったのかという、経過もちょっと知りたいなという。

そして、どこでとまって現在の北海道なのか、どこなのかはわかりませんが、現在の沼の計画は、もうそもそもなくなってしまったものなのか、計画はあるのだけれども、

どこかでとまってしまっているものなのかというのを調べるのが可能であれば調べたいなという。

以上です。

○田村委員長 ありがとうございます。

平松委員

○平松委員 先ほどちょっと言った中で、今、中川委員から出たのと、考えと同じようなことを、共通項があるので言いたいのですけれども、NPOですとか自然保護団体が沼を生かした活動をしたいというのを、まずどういった団体がどんな方向にいるのかという調査は1回してもいいのかなと思うのですよ。

その人たちと、例えば町だとか観光協会だとか、という人たちがリンクしているとは思いますが、改めてその人たちにただ任せるといっていい考えではなくて、その人たちも協力者の一団体として、何か方向性を大きくもっていけるものに向かっていかないかなという気もするのですよ。

くどい話ですけれども、インバウンド来までといたら結構時間かかるので、やはり例えば老人大学だとかで沼の歴史を勉強したりとかとする機会があって、それがよくて老人大学に行ったという人の話もちょっと聞きましたので、だからただただ勉強して終わるのか、例えば台場があったところの草刈りにも、そういう人たちも声をかけて一緒に整備してみるだとか、そこに行くまでの道路の草刈りなのかもみんなでやってみようかとか、ここに書いている魚沢峠という名前なのかな、昔トンネルできる前あまで、こっちは通っていたのですよ。

今、何も残っていないでしょうけれども、登り口なのにも旅館があったのだとか、いろんなそういうのがありますし。

トンネルが、今、伏線化したので、どのぐらいの予算ついているのかわからないですけれども、道かな、国かな、採石を毎年、補充して、万が一トンネルが通れない場合には、この道路を通れるようにという整備を、多分毎年しているはずなのです。

この道路を使って、林業をやっている人が材

出ししたりだとか、ということをやっていますので、どんどん一般車両を入れるには、かなり危ない道路なのですけれども、景色のいい場所も一部ありますし、隧道の上のあたりにも何かバスが出てくる場所で、木を少し切らなければだめでしょうけど。結構、駒ヶ岳をゆっくり見られる場所なのかも昔あったのですよ。峠を越えて、そのバスで遠足だとか何かによく来たときに、子供が酔うものだから、そういう場所でバスをとめて一休みしたりだとかしていた記憶がありますので、そういう整備。

それから今度、湖畔をゆっくり一日かけてシルバー世代が歩くだとか、そういうものを目指してくると、当然足りないものが次から次と見えてくると思うのですよ。例えばトイレがないとか、雨降った場合に東屋みたいのがあればいいのではないかとか。

それから、いつも言われているのは、せっかく歩いても葉っぱいっぱいあって見えないと。

だから、この辺も道に要望して全部が全部ではなくても、やはりポイントとして、ある程度、木の伐採だとか、そういう要望をしていくと。こういう積み重ねをして、地元の人たちがちょくちょく大沼に来てくれると、それはインバウンドの人たちにもつながることになると思いますので。

これから、1年、2年の間、できるだけ地元の人たちに楽しんでもらえるものを一生懸命洗い出すということ、今回の大沼に関するテーマに挙げるのが一番いいような気はしますけれどもね。

**○田村委員長** ほかに、何かありますか。

青山委員。

**○青山委員** 今、平松委員も言っていたのですが、中川委員からも出ましたけれども、時期的に前回の視察というのは2月で、大沼の氷を見させていただいた。

時期的に、これからいい時期になるので、城岱牧場、それと学芸員が説明の中で、今、平松委員が言ったその場所、そこも時期的にもう見られる時期になってくるのかなと思う。

それと、キャンプ場もぐるっと。そうする

と、いいルート、視察のルートになるのかなと思います。

よろしくをお願いします。

**○田村委員長** 今いろいろ話の中で、再度2月10日に見られなかった大沼に関する部分をもう1回見たらどうかということですね。

まず、城岱、それから駒ヶ岳のほうの、あと何メートルだか何百メートルの避難路というのですか、そこをどういうふうな形になっていくのかという、将来的な観光バスの通り道になるだろうという、それによって観光の流れ方がまた変わってくるというようなこともあるかと思えますので、その部分。

それから、今、話あった西大沼ルートという左側、あそこを上がって下りてみるというようなことと、それから大沼のこの計画、現在どういうふうな、もう頓挫したのか、整備終わってという話なのか、そこら辺を今現在どうなっているのか、そこら辺の確認ということと、それから、もう1回大沼をぐるっと若葉が出てきているので、景観整備という視点の中で、もう1回ぐるっと見たらどうなのだろうということと、それからちょっとあれなのですけれども、NPOだとか大沼にかかわる団体がどんな活動をしているのだというようなことで、こういう活動団体の内容を知りたいということなのだろうか。

そういうことであれば、それなりに把握している担当課のほうから報告してもらおうというようなこともひっくるめて、結構な項目になりますけれども、そういうものも改めてまた実施していきたいというふうに考えますけれども、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

**○田村委員長** 若山委員。

**○若山委員** 何も言わないであれするのはあれなのですけれども、ちょっと今回の感染症の影響で、非常に今までの考え方と全く変わって、インバウンド頼りでやっていたものと、今回のこの七飯町観光振興計画2025年までありますけれども、いかに人を呼ぶかという、宿泊も含めてですけれども、そこに重点があって、

ずっとやってきているわけですね。

でも、今回のように何かあったら来ないでくださいというような、そういうことまで言われるような状況になって、果たして今の利活用というのをそのまま前のおりに進めていいのかというは、ちょっと非常に疑問がありまして、思い出せば去年の大沼のコンベンションの総会の後の宴会のときに、クルーズ船が50隻来ましたと。この何人かが大沼に来たら、物すごい経済効果ですよなどと言っていたわけです。

だけでも、そのクルーズ船がウイルス感染の集団感染の何かあったときに、函館が本当にそういう対応ができていいのかどうか、そういうこともあったりしまして、果たしてこのインバウンド頼り、あるいは観光客をただ呼べばいいというような、今までの発想とはまた違うものを考えなければいけないなと思いつつ、どうすればいいのかよくわからないのですけれども。

だから、ちょっとまとめ方としては、非常に難しいのかなというふうに思うのですけれども。先ほど言ったとおりにキャンプ場を少し整備して何とかというのは、いろんなニーズがある中を少しずつ増やしていくというのは、非常に大事だと思います。

僕が言いたいのは、登山客を大沼側から登るような、そういう客寄せをすとか。

平松委員が言ったルートのところも、途中で登山口があるのですね、ぱっと上がる道路の中でね。

だから、大沼からも行って、赤井川で行かなくても大沼から行って登山口にすぐ入れるルートにつながるのですけれどもね。四季とか何とかのホテルか何かの、そこにすぐ出るのですけれども。そういうものを地道に増やしていくしかないのかなというのが気持ちです。

ただ、登山客って余りお金を落とさないのですよ。JRで来るとか車で来るとかというぐらいなあれなので、お土産も余り買わないし。

キャンプする人だって、キャンプ入場料どうのこうのとか、何かそういうトイレへ入ったら100円とか、そういうものでもしない限り、

余りお金を落とすような人たちではないので、自分がそういうことをするものなので、できるだけ節約して、何かやるというのがその人たちなので、インバウンドで海外から来てお金を落としてくれる人とはまた違うので、経済的にどうするかというのは、ものすごい難しいのかなという感じはします。

ですから、平松委員が言うとおりに、地元の人に親しまれるような食堂にしても何しても、地元の人が飯を食いにいくような、そういう店があるかないとか、そういうようなことが必要なのかなと思うのですけれども。それだけだと、活性化ってなかなかそういうの全くできないものなので、ちょっとこの利活用とか新幹線だって乗車率がどうだとかあって、ちょっと何かあると全くもう変わってしまうわけですよ。

そこを、ちょっとまだ整理できていないので、そこを今回の特別委員会のところで、何かこういうようなケースはどうするかとか、今現在の観光のものだけではなくて、そこで商売をやっている人たちの話を聞くとか、そのような機会も少し設けて、疲弊の状況だとか何かそういうものも少し報告にまとめられたらどうなのかなという気がするのですけれども。

ちょっとまとまらないのですけれども、ちょっととそこだけつけ加えさせて。

○田村委員長 それでは、ちょっと暫時休憩したいと思いますけれども、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○田村委員長 休憩いたします。

午前10時37分 休憩

午前10時59分 再開

○田村委員長 それでは、休憩前に引き続きまして会議を開催いたします。

それぞれ、各委員さんのほうから貴重な提言いただきました。

要は、私たちが大沼に関して観光客を主眼とするというのはもちろんですけれども、やはり私たちが忘れかけていた身近な散策の場としての大沼をもう一度見直そうという、そういう目



線に立脚しながら、再度、皆さんの意見の中には城岱を見ようとか、あるいは駒ヶ岳の避難路をもう1回観光の流れを見てみたいというようなことで避難路の現地、それから西大沼のじゅんさい沼に抜けるルート、こういったようなものもきちんと見ておく必要があるということと、大沼の周辺については景観整備、こういうものに向かって周遊道路をもう一度見てみたいということと、それからキャンプ、東大沼のキャンプ場ありますけれども、だんだん通年通しては、あそこキャンプのテントが張らさっているということも見ました。したがって、結構人気が高まっているということで、さらに増やすような、そういう候補地があるかどうか、これもあわせて見てみたいということと、それから大沼にかかわる団体、どんな活動をしているのかというような部分について、もう少し調査研究してみたいという声もありましたので、こういったようなものについて、この次、再度調査をして、その後、またいろんな議論をしてみたいというふうに思いますけれども、いかがですか。よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○**田村委員長** それでは、そのように次回は調査をすると。今、言った項目について調査をするということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ただ、日程につきましては、私とそれから副委員長、それから事務局で日程を調整しながら、改めて皆様方に御連絡いたしたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(発言する者あり)

ありますね。微妙ですよ。 (発言する者あり)

特に、城岱あたりになると、全く見えないとか、あるいは峠下の銃座だとか土塁だとかになれば、ぬれているとなかなか入っていけないという部分もありますので、そこら辺もひっくるめて調整してまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そのほか、皆様方から何かありますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

○**田村委員長** もし、なければきょうの会議はこの程度にとどめたいと思ひますけれども、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

○**田村委員長** それでは、第5回の特別委員会については、これで終了いたします。

どうも御苦勞さまでした。

午前11時02分 閉会

